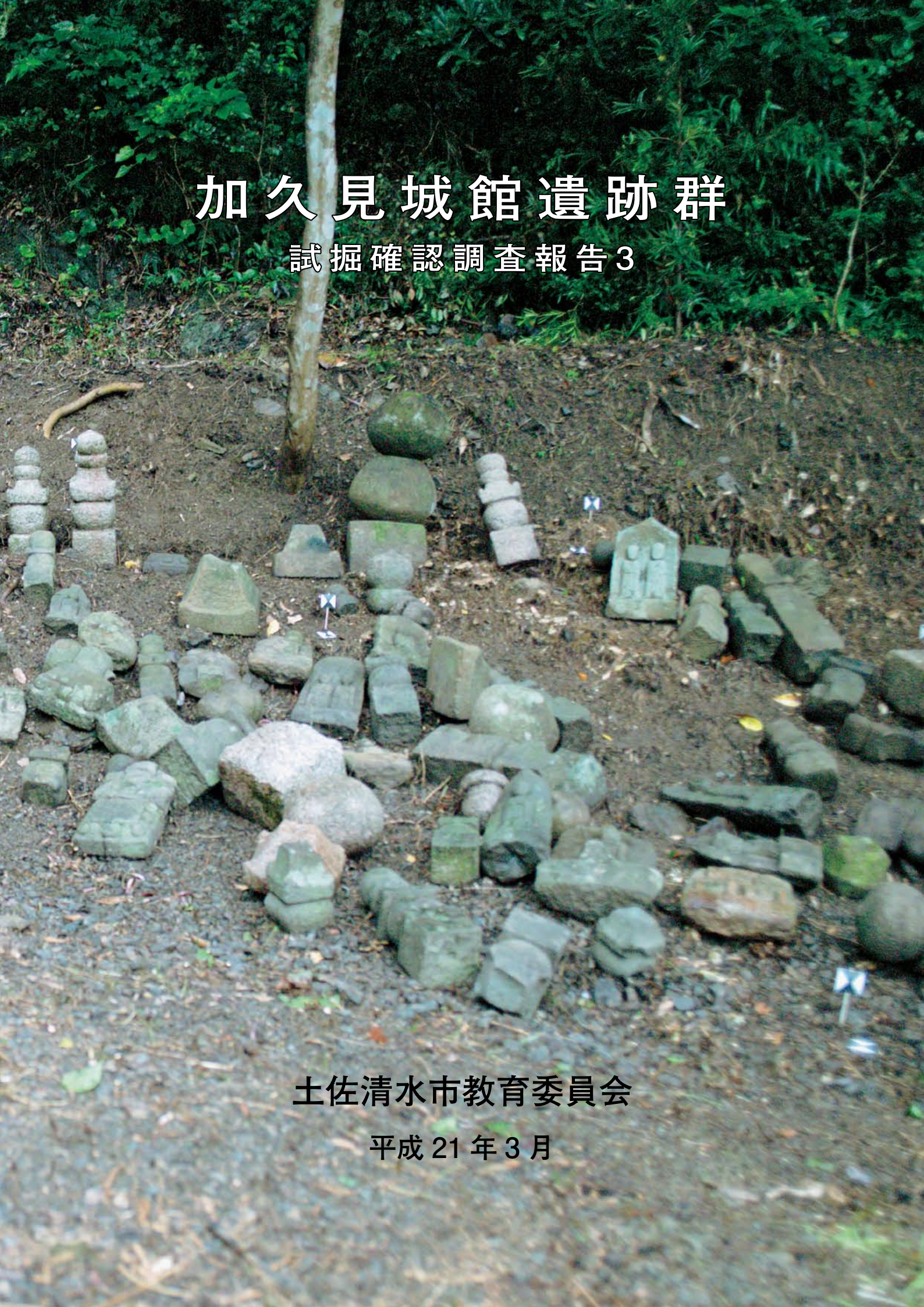


加久見城館遺跡群

試掘確認調査報告3



土佐清水市教育委員会

平成 21 年 3 月

例 言

- 1 本書は、土佐清水市教育委員会が国庫補助を受け、土佐清水市加久見において実施した市内遺跡発掘調査事業（加久見城館跡第3次調査）の概要報告書である。
- 2 発掘調査は、芝岡恵三（土佐清水市教育委員会生涯学習課）、弘田和司（高知県教育委員会文化財課）が担当し、市村高男（高知大学教育学部教授）、田村公利（足摺岬中学校教諭）のご指導・ご協力を得た。
- 3 調査は、泉慶院（23 m²）・ヲロノ川地区（42 m²）蛙田地区（33 m²）の3箇所、4～7本のトレンチを設定して行った。（その他詳細は巻末抄録に記載）



図1 調査地点及びその周辺

1 遺跡めぐり環境

土佐清水市加久見は、現在の土佐清水市街地より北西に1.5kmほど離れた、加久見川下流の小平野である。加久見川は足摺半島の基部より狭い山間を屈曲しながら流走するが、ここ加久見において南北約750m、南部での幅約500m程の三角形の可耕地を生み出す。但し、加久見氏の時代からは川の沖積作用や近世以降の埋め立てによる景観の変化もあり、図1にも窺われるように、旧加久見川の痕跡は宝山の東側を流れている。さらに川は現在の国道321号の南で烏帽子山に当たって東に屈曲していたとみられ、国道付近に「汐入り」の字名を残すように、あたりは河口付近の湿潤な湿地帯であったとみられる。

戦国期に京を離れ自らの所領である土佐国幡多荘に赴き、幡多を中心に地域権力として隆盛を誇った土佐一条氏は広く知られるところである。土佐清水市の加久見は、その土佐一条氏を外戚として支えた土豪加久見氏の本拠地であり、平成18・19年度の調査によって、所在が明らかとなった加久見氏の居館跡を中心に加久見城、加久見上城、加久見氏の菩提寺である香仏寺、泉慶院、家臣団の屋敷が存在する小世界を形成していたとみられる。

さらに、加久見氏居館下層において検出した鎌倉期にさかのぼる遺構と遺物や香仏寺における五輪塔群のうち、貞治2(1363)年の紀年名が残るものも存在するなど、15世紀後半、文献に加久見氏が登場する以前からのこの地の隆盛ぶりを窺わせる。

2 調査の経緯・経過

加久見地区におけるこれまでの発掘調査は、平成17～18年度、高知大学教育学部（市村教授）を中心とした調査に始まる。加久見城、加久見上城の踏査、香仏寺の石造物の調査に加え、ヲロノ川・宮本地区での居館跡の探求、泉慶院跡の調査が行われている。それを受けて、平成18年度からは市教育委員会が調査を実施し、その結果、宮本地区において加久見氏居館跡の一端が明らかとなった。

平成20年度の調査は、ヲロノ川・泉慶院・蛙田地区を対象に8月18日より開始した。ヲロノ川・蛙田地区では家臣団屋敷の様相を、泉慶院地区では、泉慶院跡裏の石塔・石仏群が原位置を保ち下部に遺構が存在するか否か、時期がいつかを明らかにすることを目的とした。特に蛙田地区はこれまで未調査の平野西部に位置し、『長曾我部地検帳』の記載から家臣団屋敷推定できることから注目される。

9月13日には現地説明会を開催し、9月26日には埋め戻しを終え調査を終了した。



発掘作業風景



レーザー測量作業

3 調査の概要

(1) ヲロノ川地区

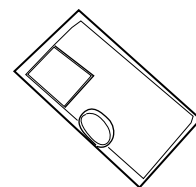
加久見川の支流であるヲロノ川の小谷沿いにあり、加久見氏居館からは東に約 130m の地点で、古民家の跡地に 2 箇所（T 1・2）とその前面の庭及び畑に 2 箇所（T 3・4）の調査区を設定した。

T 1・2 では、遺構は土坑 1 基、ピット 1 本のみで、遺物は出土していない。

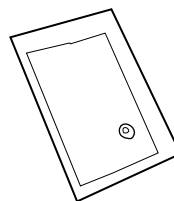
遺構・遺物を検出したのは T 3・4 で、柱穴及び掘立柱建物とみられる柱穴列が見つかった。周囲の地形から判断して、建物規模は 2×3 間程度とみられる。

出土遺物には、中国製天目碗、青磁（Ⅰ・Ⅳ類）、青花、備前焼（Ⅲ～Ⅴ期）、常滑焼、肥前系陶磁器、瓦質土器、土師質土器、宋銭（皇宗□寶）が出土している。

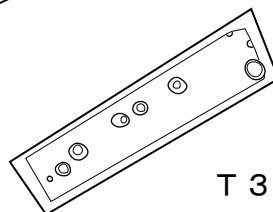
遺構面は 1 面のみであったが、柱穴から 1 類の青磁碗が出土するなど加久見氏居館跡と同様、屋敷地が鎌倉時代にさかのぼる可能性があるほか、江戸時代にかけて屋敷が存続したことも明らかとなった。



T 1



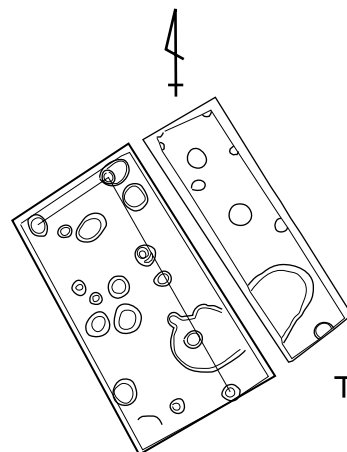
T 2



T 3



T 2～4 完掘状況



T 4

図2 トレンチ配置図 (1/150)



出土遺物



青磁碗出土状況

(2) 泉慶院地区

泉慶院跡の北側には畑として開墾された平坦面があり、さらにその4 m上方を東西に走る山道との間の斜面には、五輪塔・一石五輪塔・石仏と五輪塔の基壇とみられる石材約150基が散在していた。

調査の結果、現位置を保つものは存在しなかったが、地山を掘削した墓坑の痕跡や地山を整形して平坦面を検出した。また、畑開墾時とみられる流入土中の円礫は、当初石塔の周囲に敷かれていたとみられ、さらに骨臓器とみられる甕片が出土していることから、この位置に当初から五輪塔が設置されていたことは明らかである。さらに周囲には墓地造成によるとみられる平坦面が存在することから、石塔・石仏の一部はこの場所に持ち運ばれたと考えられる。

五輪塔とその基壇には花崗岩製と砂岩製がみられる。形態から4類に分けられそうで、時期的な差を示す考えられる。石仏は、全て地蔵尊で、形態から3類に大別できる。また、大半が砂岩製である。五輪塔には無い凝灰岩製も1基みられた。



図3 調査区配置・地形測量図 (1/200)

(3) 蛙田地区

宝山東裾を造成した宅地跡2箇所（T3・4）及び市道を挟んだ東側で水田を埋め立て造成した空地部分2箇所（T1・2）の調査を行った。

T3・4では、宅地による攪乱があったものの土壌、掘立柱建物の柱穴と屋敷地の整地層を確認しており、鎌倉時代から江戸時代にかけての遺物が出土している。

出土遺物には、中国産の白磁合子・皿・青磁碗や瀬戸美濃産の天目、唐津、伊万里、瓦質土器、土師質土器がある。柱穴の1つでは、上面で18・19世紀の肥前陶磁が、底部から15世紀青磁が出土しており、建物の成立や廃絶時期を一端を窺い知ることができる。

T1・2は現地盤でT3・4より約1.5m低い。層序は、厚さ60cm整地土層の下で現代の水田土とその床土があり、その下層は、分厚い粘土層がある。この粘土層は数層に分けられ、伊万里が出土していることから江戸時代には水田として利用されていたとみられる。さらに、深さ約2mで木や植物等の有機質土の堆積を確認しており、江戸時代以前の河道が近くを流走していたとみられる。

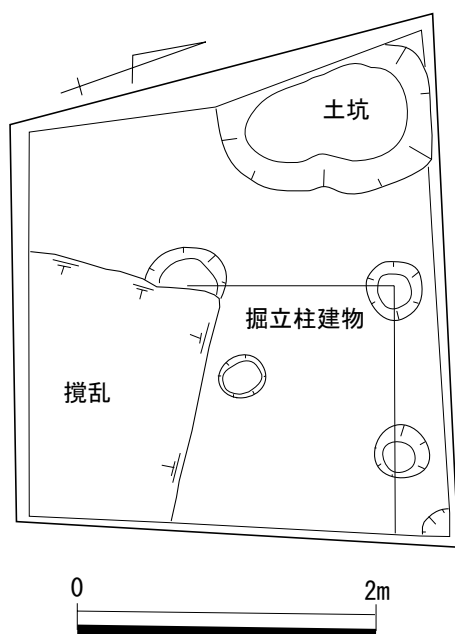


図4 T3平面図 (1/50)



T4 整地土層



T1 土層断面



蛙田地区調査地全景

4 おわりに

これまでの発掘調査によって、中世における加久見の世界が明らかになりつつある。平成18・19年度の加久見氏館の調査では、加久見氏が文献に登場する15世紀代の遺構はもとより、先行する鎌倉時代の建物の存在が明らかとなり、基壇とみられる石列から礎石建物の存在が想定できた。館の背後には加久見城、南側の谷部には加久見氏の菩提寺である香仏寺が、ヲロノ川の谷筋の反対側に加久見上城跡が存在する。出土遺物からも、高麗青磁、青白磁梅瓶など地域の拠点遺跡にしか出土しない品（威信財）や、備前焼、常滑焼、楠葉型瓦器碗など各地との交流を物語るものであった。この先行建物が加久見氏と結びつくか明らかではないが、幡多荘以南村の管理に関わる建物と考えられている。

ヲロノ川地区や宝山東麓の蛙田地区においては、掘立柱建物や建物の一部を構成する柱穴を検出した。加久見氏の館と同様、すでに鎌倉時代には屋敷が成立しており、室町・戦国時代をへて江戸時代まで存続することが明らかとなった。そこから出土した貿易陶磁器のうち、中国製天目碗や白磁合子は一般集落では出土しない品であり、建物は家臣団の屋敷と考えられる。また、中国製天目などが家臣階層にまで行き渡っていることは、加久見氏の南海貿易との関わりを裏付ける資料であろう。

加久見では最も奥の谷部にあたる泉慶院地区では、柱穴や礎石など加久見氏の菩提寺の1つと考えられる寺院の存在が明らかとなっており、その上部斜面に散在した五輪塔、石仏の石材約150点が散在していた。石材の大半は砂岩製であり、時期的に後出すると思われるが、室町時代から戦国時代にかけての五輪塔・一石五輪塔・石仏がみられた。特に戦国期の一石五輪塔と石仏が中心で、そのうちのいくつかには基壇が伴うこと及び地輪に蓮華文を彫るなど、県内で例を見ないものも多く、畿内地域からの搬入や石工の移動などが考えられる。さらに北東の谷奥には平坦面が十数段存在し、加久見氏の菩提寺の一つとして広範な墓域を形成していたと見られる。

今年度の調査においても、貿易陶磁器をはじめ各地からの搬入土器や圧倒的な数量・規模の五輪塔・石仏群など加久見氏と交易との関わりや幡多地域における勢力の強大さを窺い知ることができた。

抄 録

ふりがな	かぐみじょうかんいせきぐん							
書名	加久見城館遺跡群							
	市内重要遺跡試掘確認調査概要報告書3							
編著者名	芝岡恵三・弘田和司							
編集機関	土佐清水市教育委員会							
所在地	〒787-0392高知県土佐清水市天神町11番2号 TEL0880-82-1116							
発行年月日	平成21年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かぐみじょうかん 加久見城館 いせきぐん 遺跡群	土佐清水市加久見ヲロノ川 1183・上城山 1541-1・上蛙田 467-1ほか	39209	90090	32° 54' 22"	132° 59' 53"	平成20年8月18 日～9月26日	98㎡	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
かぐみじょうかん 加久見城館 いせきぐん 遺跡群	集落、墓地	中近世	掘立柱建物、柱穴、 墓坑		青磁、白磁、天目、肥前陶磁、 土師質土器、宋銭		加久見氏家臣団屋敷と五輪塔群の調査	

